

グルコマンナンを用いたセルブロック法について

○ 金子千之¹⁾ 長谷川清志²⁾ 宇田川康博²⁾

1) 藤田保健衛生大学衛生学部臨床細胞病理学、

2) 同大学医学部産婦人科

【はじめに】セルブロック法は細胞検体を固形化し、立体的に観察する手技で体腔液、尿及び子宮内膜などの材料を用いて実施されている。現在、セルブロックの作製には多くの方法が報告されており、それぞれ長所・短所がある。我々はこんにゃく芋より抽出したグルコマンナンを使用したセルブロック法について検討したので手技を中心に報告する。

【材料及び方法】材料は既に確定診断が得られている卵巣明細胞癌患者の腹水を用いた。

方法 I: [セルブロック用細胞検体の準備]

1:腹水を 1,500rpm 5 分間遠心し、上清を取り除き、通常の細胞診検査において塗抹標本作製時に残った検体に 20%ホルマリンを加え室温で 1—12 時間固定した。

2:1,500rpm 5 分間遠心し、上清を取り除いた。

3:沈渣にエオジン液を 2ml を加え、よく攪拌する。

4:80%アルコールを 1~5ml 加え攪拌した後、1,500rpm 5 分間遠心し、上清を取り除いた。

5:沈渣にグルコマンナン-ホルマリン水溶液(HOLDGEL 110:アジア器材株式会社)を 1 滴静かに加える。

3



4



5



方法 II: [セルフブロック作製用カセットの準備]

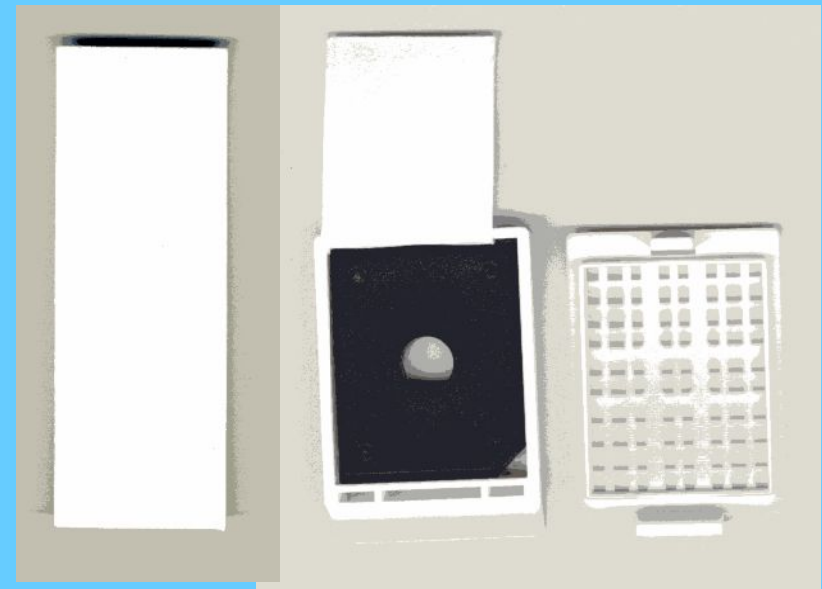
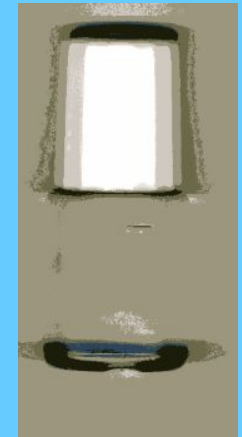
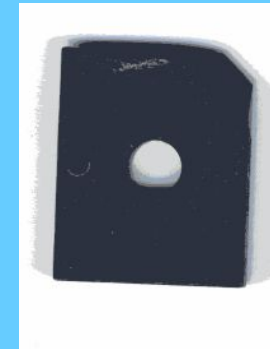
6: 円筒状の穴の開いたセルフブロック用枠

(アジア器材株式会社) の下面の穴の周囲に、
グルコマンナン-ホルマリン水溶液を塗る。

7: 上記のセルフブロック枠の上下面を、 $6.5 \times 2.3 \text{ cm}$ に切断したろ紙で包むように挟み、

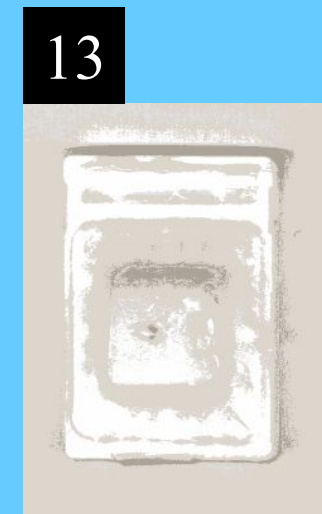
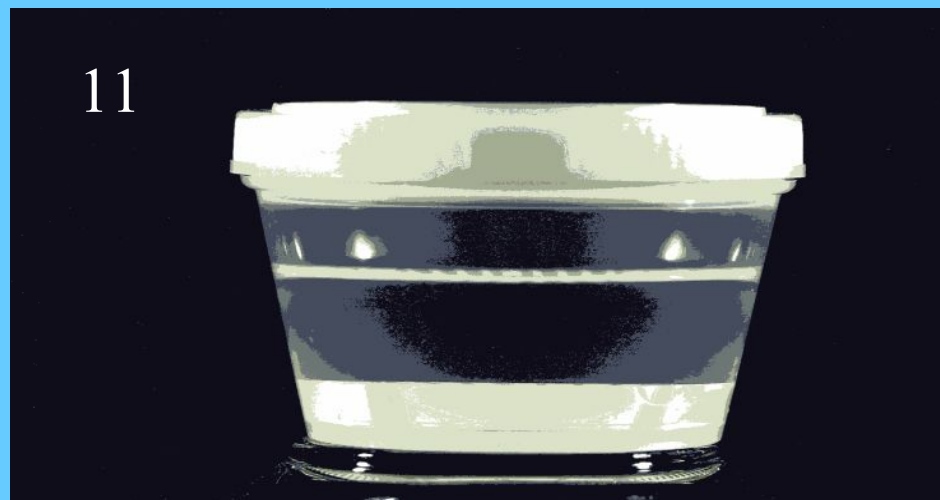
組織標本作製用カセット (システムカセット

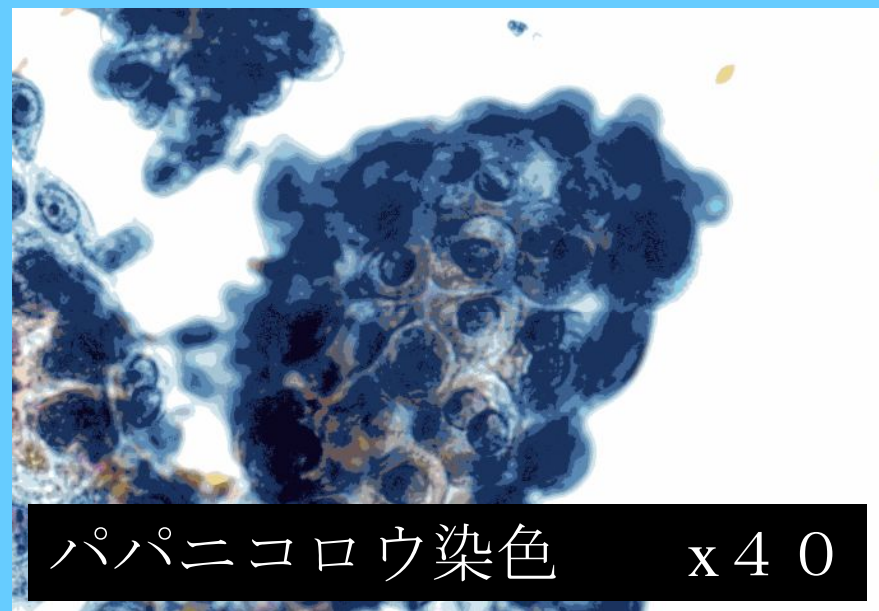
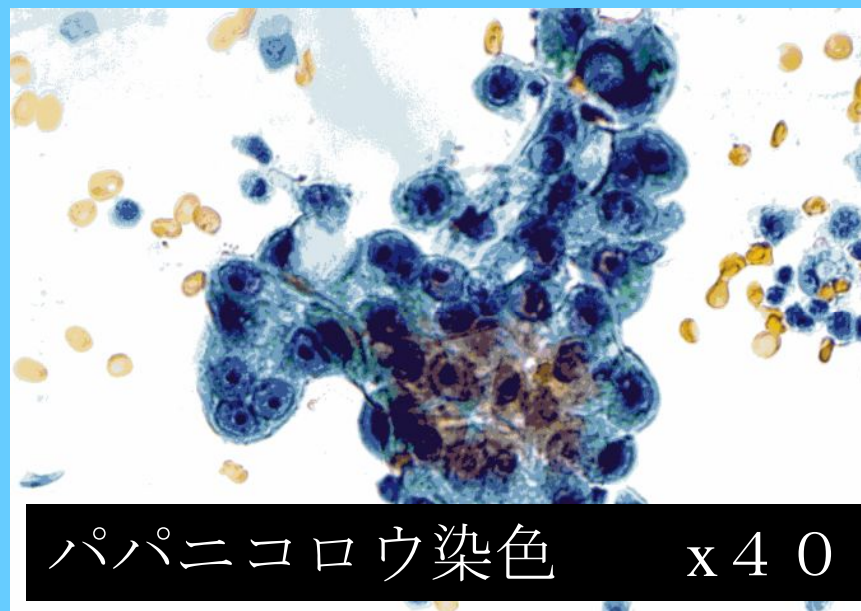
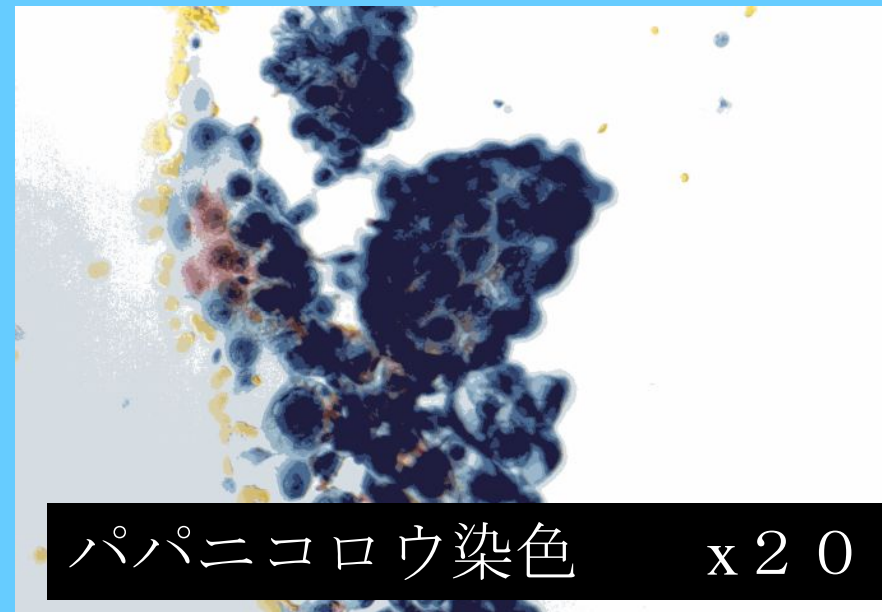
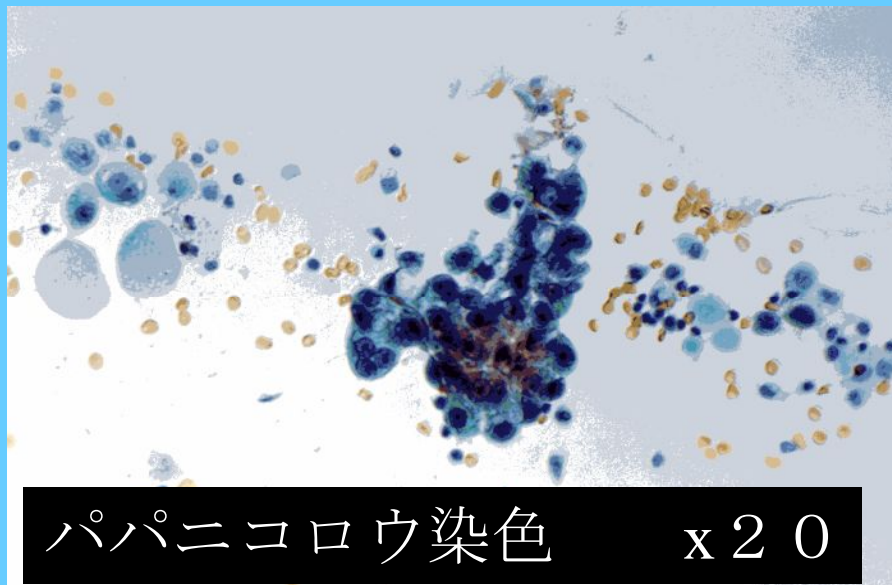
G: アジア器材株式会社) に入れる。

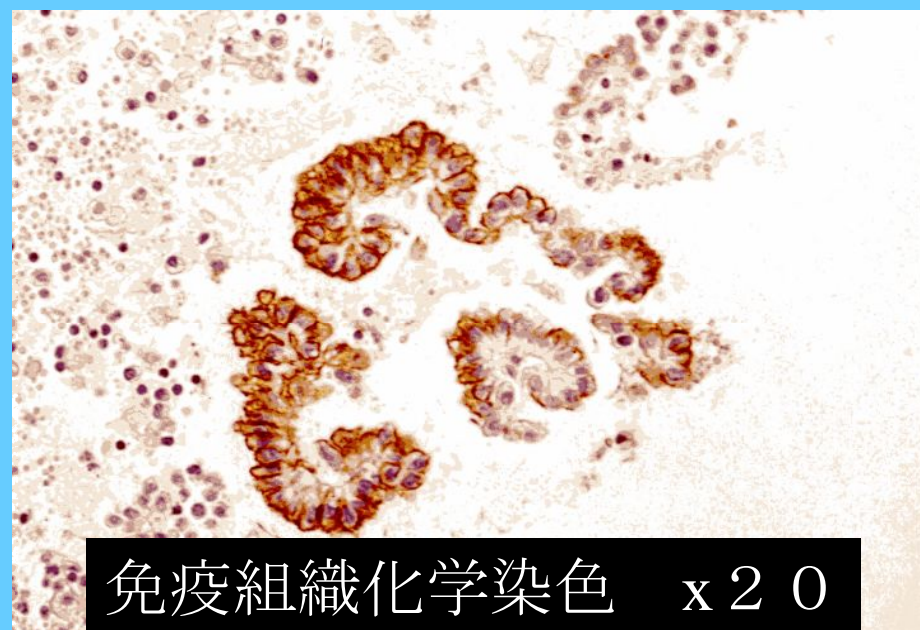
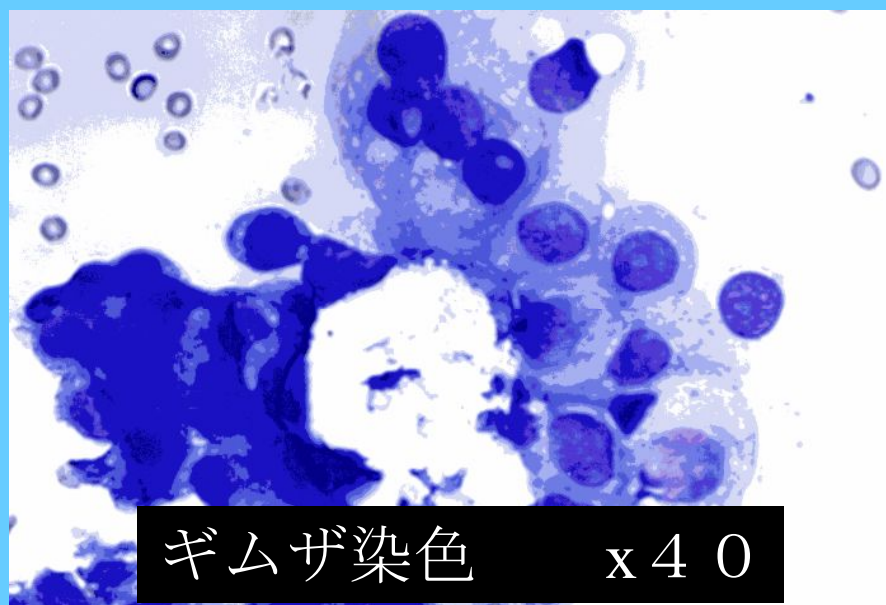
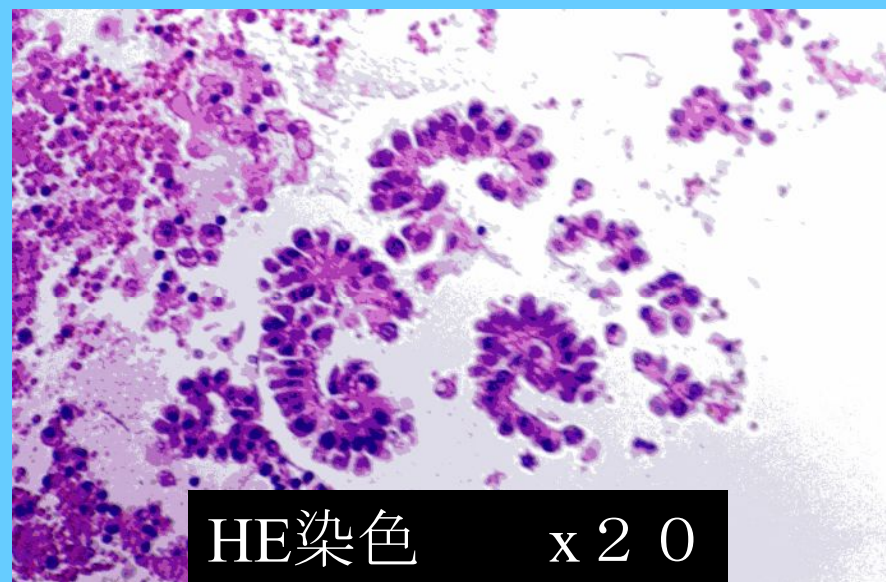
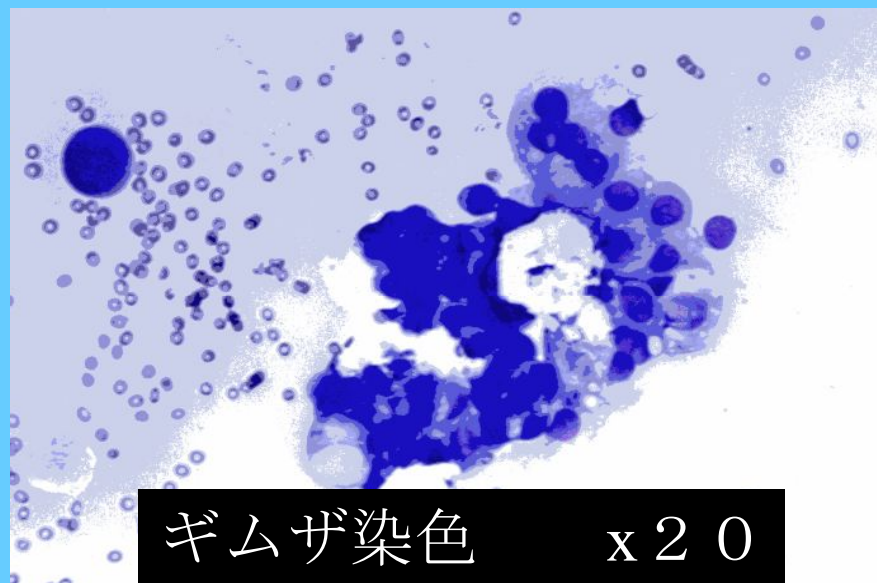


方法 III: [セルフブロックの作製]

- 8: 4の沈渣をスポイドで吸い上げ、9の穴に入れる。
- 9: 穴が完全に満たされるまで、グルコマンナン-ホルマリン水溶液を静かに追加する。
- 10: ろ紙を上面に被せ、その上から組織標本作製用カセットの蓋をする。
- 11: メタノールに3時間浸けると、グルコマンナンが固化しゲル状となる。
- 12: 細胞検体を含む円柱状のゲル（セルフブロック）を穴から抜き出し、ろ紙を外した。
- 13: セルフブロックを組織標本作製用カセットに入れ、通常の方法で脱水、パラフィン浸透し、パラフィン包埋ブロックを作製する。







【結果及び考察】セルブロックをパラフィン包埋したブロックから薄切切片を作製し、HE染色や免疫染色を行なった。

今回我々は余り知られていないがグルコマンナン-ホルマリン水溶液を用いたセルブロック法について検討したが操作が簡単で細胞診の補助診断として活用出来るものと思われる。